

交渉速報

J R 貨物労組中央本部業務部

2019年3月8日

No.15

会社：定期昇給4号俸は実施するがベアは難しい
組合：会社の考え方は到底納得できない！再考せよ！！

～2019JR総連春闘 第4回交渉報告～

中央本部は本日10時00分より「第4回交渉」を行い、会社は現時点での考え方を以下のとおり明らかにしました。

- ①西日本豪雨の影響で100日間に亘り山陽線が寸断されたことをはじめ、今年度は自然災害が続き100億円規模の減収を余儀なくされた。しかし、グループ会社を含め社員一丸となって迂回運転やトラック代行輸送を実施したことで現在は荷物も戻ってきており、貴組合協力に感謝申し上げます。
- ②次年度の事業計画を策定中であるが、経営自立計画の最終年度としてグループ会社全体の一層の成長を促していく必要がある。総合物流企業としての方策を立て、災害減収から復活させ再び連結決算100億円の黒字達成が重要である。
- ③一方、次年度は人事制度の改正を盛り込んでいる。グループ会社の持続的成長と一層の利益確保をするためには本業である鉄道事業で稼ぎ、安定した経営基盤をつくっていかねばならない。
- ④以上の事柄を会社として検討した結果、定期昇給4号俸は実施するが、ベースアップについては難しい。

中央本部は会社の回答に対し、以下の通り強く指摘しました。

- ①組合員は苦勞が報われているという実感が全くない。我々は収入確保に全力を尽くしている。西日本豪雨災害では一丸となって努力してきたが、ベアゼロでこれから何を頑張れというのか。会社の考え方には怒りしか感じない。
- ②職場では会社の将来に失望した組合員の若年退職者が後を絶たない。技術を持った人が次々と退職していくことに、経営陣として危機感を持つべきである。
- ③今年度ベアゼロとした場合、昨年のベア実施の意味がなくなる。これで新しい活力が生まれるのか。組合員の努力に応え、さらにやる気を出すためにはまずベア実施は大前提である。本日示された考え方は到底受け入れられない、再考を求めます。

組合の指摘に対して会社は「今日示した考えは第4回交渉における現時点の考えであり、組合の指摘については持ち帰り、回答指定日までに社内で議論する」と回答しました。

さらに組合は「昨年19年ぶりにベアを実施した喜びの声は大きかった。これは会社にも届いていると思う。今年ベアなしでは失望感は想像以上である。再考せよ。」と訴え交渉を終えました。

本日以降山場の闘いに突入します。会社は本日の交渉においてベースアップについて「難しい」との考え方を明らかにしました。ベア獲得・諸要求の実現にむけて、職場からの声をこの闘いに結集させましょう。2019JR総連春闘の勝利にむけて、中央本部は職場で働く組合員の想いに応えるため、回答指定日にむけてその最先頭で奮闘していくことを決意し、第4回交渉報告とします。

次回交渉（回答指定日）は3月15日（金）です。

以 上